

赤潮情報（6）

令和6年7月31日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

7月30、31日に全域調査を行った結果、有害プランクトンのカレニア ミキモトイによる赤潮が継続しています。

細胞密度は前回調査よりも減少傾向ですが、引き続き広範囲で確認されております。本種は局所的に密集することが多いため、今後も注意してください。

<有害プランクトンの状況>

○カレニア ミキモトイの1mlあたりの最大密度は434細胞でした。

- ・本種は、海水1mlあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- ・また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。
- ・魚介類によってはへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

○シャットネラ属は確認されませんでした。

<今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、増田)までご連絡下さい。

漁場調査結果

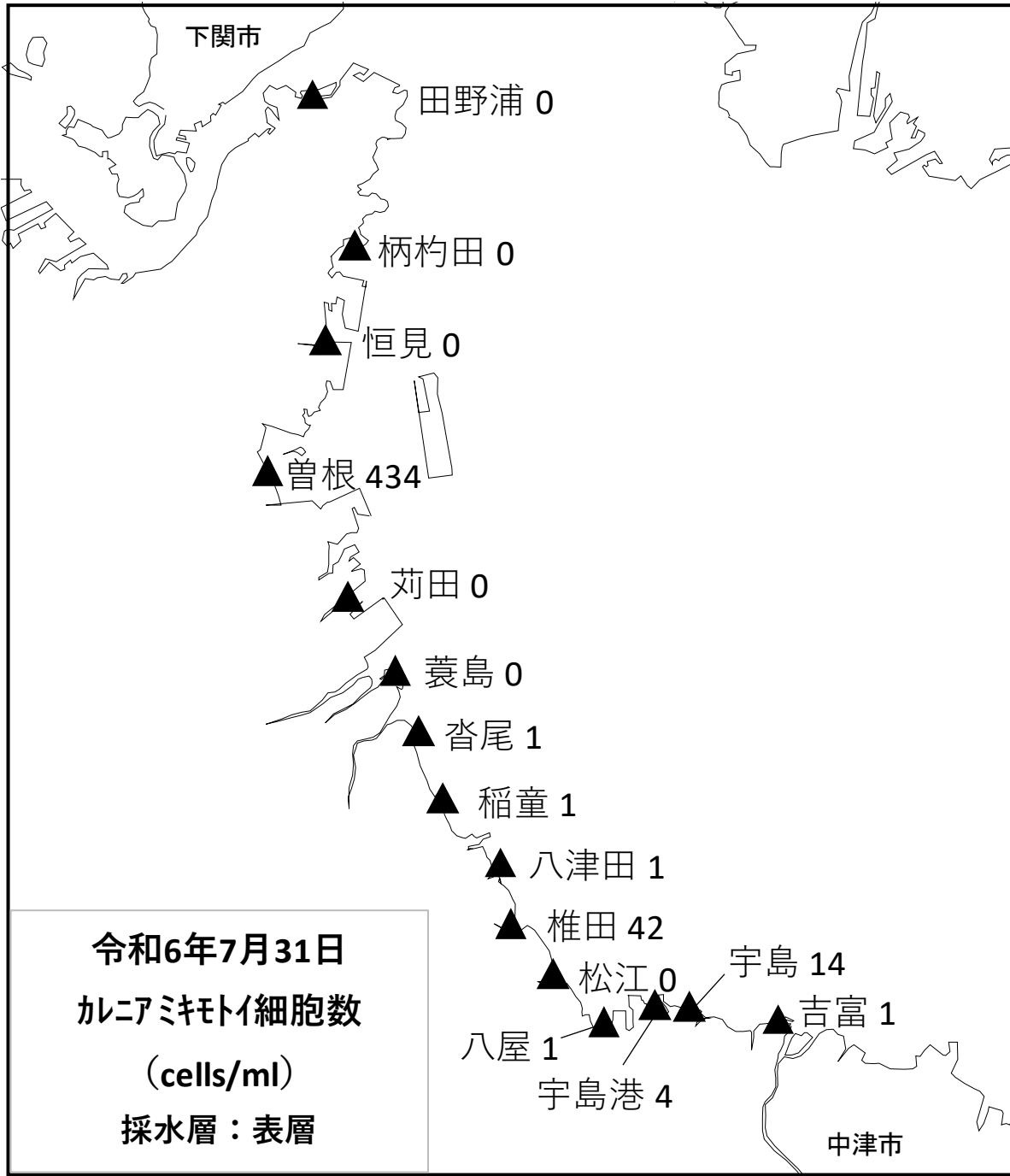


図1 カレニア ミキモトイの漁港域の細胞数

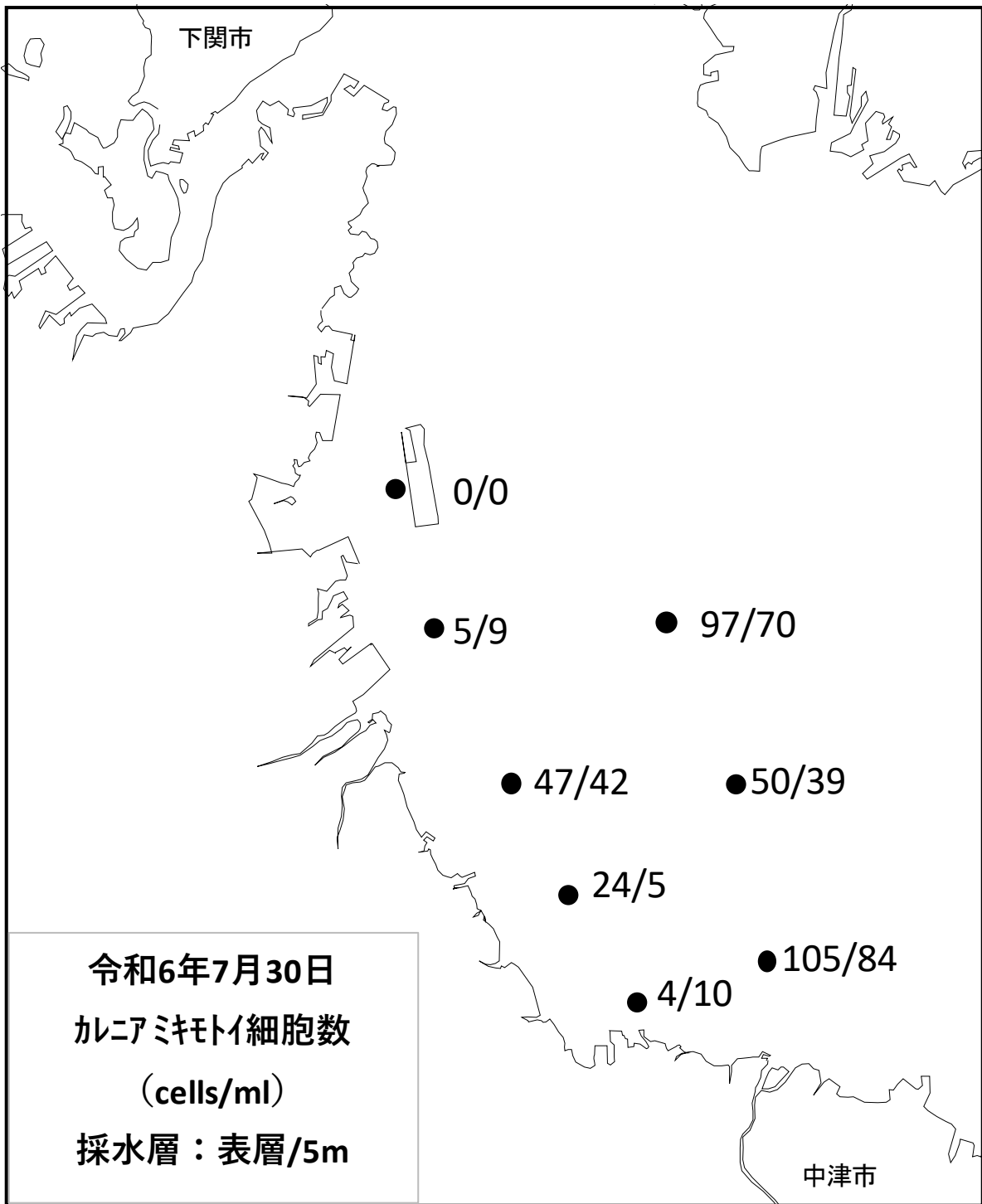


図2 カレニア ミキモトイの沿岸域の細胞数